

Title	医薬品業界における株価形成
Sub Title	
Author	小川哲司(Ogawa, Tetsushi) 村井俊雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1982
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001982-0190

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0190

学生氏名

小川 哲 司

主査 村 井 俊 雄

(エーザイ株式会社)

副査 青 井 倫 一

所属ゼミナール

太 田 康 信 研

太 田 康 信

医薬品業界における株価形成

本研究の目的は、医薬品産業という一つの業界を構成する個々の企業の株価形式要因を分析することによって、他社との株価の差異がどのような要因によってもたらされているか、個々の企業の株価変動はどのような特質をもっているか、を採りながら各企業が株式市場からどのように評価されているかを検討することである。

分析方法としては、株価形成要因を各企業固有の要因と、企業外の要因とに大別する方法をベースとして、株価レベル分析、株価変化率分析、出来高回転率分析と、三つの角度から計八種類の計量モデルを構築し、分析した。企業外要因として、医薬品産業指数を代理変数とし、企業固有要因として、株価レベル分析では予想EPS、予想経常利益を、株価変化率分析では、経常利益増額修正情報、すべての企業情報、外人需給を説明変数とした。

分析結果から、各企業の固有要因を情報というかたちで説明変数に加えることによって、株価形式要因をかなりの高い水準で説明することが可能であることが解明された。更に外人需給による株価へのインパクトの大きさも証明された。

医薬品業界全体について企業固有の株価形式要因を探ってみると一つの流れがある。それは新製品のライフサイクルを機軸として株価が形成されていることである。医薬品業界にとって、新製品開発がいかに重要であるかを株式市場は認識しており各企業の新製品開発動向を株価に織り込むことによって、各企業を評価していることがわかる。